

「祝日過多社会」の警鐘

主体的に休日とる「雇用環境」「ワークスタイル」に欠ける日本社会



社会研究部 主任研究員 土堤内 昭雄
doteuchi@nli-research.co.jp



どてうち・あきお
京都大学工学部卒。77年株式会社竹中工務店入社。
マサチューセッツ工科大学大学院高等工学研究プログラム修了。
88年ニッセイ基礎研究所入社。99年より現職。
著書に「人口減少」で読み解く時代～輝く社会と人生のデザイン」他。

先日、8月11日を「山の日」とする祝日法改正案が参議院本会議で可決、成立し、2016年から実施される。この記事を読んで、祝日の意義とその数について考えてみた。

祝日については、「国民の祝日に関する法律」（昭和23年法律第178号）に規定されており、第1条に『国民こそって祝い、感謝し、又は記念する日を定め、これを「国民の祝日」と名づける』と書かれている。これまで、1月1日の「元日」に始まり、12月23日の「天皇誕生日」まで年間15日の祝日があった。

今回、祝日に加えられた「山の日」は、『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』という目的で制定された。「海の日」は『海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う』とあり、「みどりの

日」は『自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ』とある。いずれの日も自然に恵まれた国土に暮らすことに感謝の念を表わす祝日だが、国民の価値観が多様化する中、「国民の祝日」として国民全体がその意義を認識し、本当にその価値を共有できるかどうかが重要だろう。

次に祝日の数についてみてみよう。日本の祝日は「山の日」を加えると16日になる。これは諸外国に比べるとかなり多いのではないか。OECD諸国をみても、アメリカ10日、イギリス8日、フランス11日、ドイツ9日など、多くの国が10日前後である。しかし、日本は祝日が多いにもかかわらず、OECD諸国の中で長時間労働者率が高く、極めて余暇時間が少ないのはなぜだろう。

それは労働者の有給休暇の取得率が低いことが一因だ。平成24年一年間に企業が付与した年次有給休暇日数は、労働者一人平均18.3日、取得日数は8.6日、取得率は47.1%だ^{*1}。オンライン旅行会社エクスぺディアの調査によると、日本の有休取得率は世界最下位^{*2}で、取得率の向上が大きな課題となっている。

そこで「国民の祝日」を追加し、労働者の余暇時間を増やそうという政策意図かもしれないが、国の主導で休日を一斉に取得すること自体が成熟社会の在り方として望ましいことなのだろうか。

また、日本社会の幸福度を低下させる主たる要因のひとつが、ワーク・ライフ・バランスの欠如であるが^{*3}、その解決には個人が主体的に休日をとれる就労条件の改善が必要だ。有給休暇の取得率を高めるためには、仕事のマネジメントスキルや労働生産性の向上も欠かせない。

日本の祝日数が多いことは、個人が主体的に休日をとることが難しいことの表れではないだろうか。我々は成熟した時代の新たな日本の「雇用環境」と「ワークスタイル」の実現を目指さなければならない。私には「祝日過多社会」はこのような日本社会の現状に対し警鐘を鳴らしているように思えてならない。

「国民の祝日」一覧 資料：国民の祝日に関する法律

元日	1月1日	年のはじめを祝う。
成人の日	1月の第2月曜日	おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます。
建国記念の日	政令で定める日	建国をしのび、国を愛する心を養う。
春分の日	春分日	自然をたたえ、生物をいつくしむ。
昭和の日	4月29日	激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。
憲法記念日	5月3日	日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。
みどりの日	5月4日	自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。
こどもの日	5月5日	こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。
海の日	7月の第3月曜日	海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う。
山の日	8月11日	山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。
敬老の日	9月の第3月曜日	多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。
秋分の日	秋分日	祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ。
体育の日	10月の第2月曜日	スポーツに楽しみ、健康な心身をつちかう。
文化の日	11月3日	自由と平和を愛し、文化をすすめる。
勤労感謝の日	11月23日	勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう。
天皇誕生日	12月23日	天皇の誕生日を祝う。

[*1] 厚生労働省「平成25年就労条件総合調査結果の概況」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/jikan/syurou/13/>

[*2] エクスぺディア「有給休暇国際比較調査2013」
<http://www.expedia.co.jp/p/corporate/holiday-deprivation2013>

[*3] OECD「Better Life Index 2014」(2014年5月)
<http://www.oecdbetterlifeindex.org/countries/japan/>